

第3学年3組 社会科学学習指導案

日 時 平成30年10月9日(火)

児 童 3年3組男子11名 女子13名 計24名

授業者 高島町立糠野目小学校 小関 健太郎

1 単元名 「工場の仕事」 (東京書籍 新しい社会 3年上)

2 単元目標

- (1) 地域の工場の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べ、工場の仕事と自分たちの生活とのかかわりを考えようとしている。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- (2) 工場の仕事の工夫を自分たちの生活と関連づけて考え、適切に表現することができる。 【社会的な思考・判断・表現】
- (3) 観点にもとづいて見学したり、資料を活用したりして、工場の仕事の様子について必要な情報を読み取り、調べてわかったことをまとめることができる。 【観察・資料活用の技能】
- (4) 地域には工業製品の生産にかかわる仕事があり、自分たちの生活を支えていることを理解することができる。 【社会的事象についての知識・理解】

3 教材について

小学校学習指導要領解説社会編の第3学年及び第4学年の目標には、地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにすること、地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにすることが示されている。また、内容には「(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。」とあり、「ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。」「イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特徴及び国内の他地域などのかかわり。」のように示されている。これを受けて本単元では、食品を製造する地元のセゾンファクトリーを取り上げる。セゾンファクトリーの商品は、地元のスーパーにも置かれているため児童にとって身近で考えやすく、「はたらく人とわたしたちの暮らし」という大単元を通して、「店ではたらく人」からのつながりの中で学習が進められるという利点がある。また、高島に本社を置き、全国展開している企業であることから、地域の広がりをつかえやすい。ネット販売も行っており、情報社会に合わせて販売形態も多様化しているということも、現代の課題として扱う意義がある。以上の理由からセゾンファクトリーを例として取り上げ、工場の仕事に従事する人々の工夫や努力、原料の仕入れや製品の輸送に伴う地域とのつながりやその他の地域への広がりなどを手がかりにして、工業生産と自分たちの生活の関わりや、地域の発展に果たしている役割について考えられるようにしていきたい。

4 児童について（男子11名，女子13名，計24名）

	はい	どちらかと言 えば，はい	どちらかと言 えば，いいえ	いいえ
自分の考えを発表することは好きですか。	5	10	7	2
友達と話し合いをすることは好きですか。	15	3	3	3
調べたことをもとに発表することは好きですか。	9	6	6	3
社会の学習は好きですか。	7	8	6	3
社会の学習は生活の中で役に立っていますか。	10	8	5	1
社会ではどのような学習が好きですか。	調べ学習，ふせんを使った学習，社会科見学，地図を使った学習，画用紙や地図，ノートにまとめること			
高島町内にはどのような工場があるか知っていますか。	ファイン，高島ワイナリー，セゾンファクトリー，オカムラ			

社会科についての事前調査では，半数以上の児童が教科に対して肯定的な考えを持っていた。日常生活にも役立っていると感じる児童が多く，前単元までの学習の中でも，これまで体験してきたことをもとにして発言していた。身近な地域や普段の生活と学習内容をつなげて考えられる児童もいる。また，国語科で本を使った調べ方について学習し，理科でも図鑑や科学の読み物を使った調べ学習をしてきたことで，地図や資料集などから必要な情報を読み取り，個人やグループでまとめるといった活動が好きな児童も多い。さらに，友達との話し合いが好きと答える児童が多いように，グループ活動を取り入れることで積極的に意見を交流させている姿が見られる。一方で，社会科の学習に対して苦手意識を持つ児童も少なくない。町内の施設を使ったり，地域の行事に参加したりすることは個人で差が出てしまうため，自ずと経験が少ない児童にとっては身近にとらえることができず，生活と学習内容をつなげて考えられない要因となっている。また，「自分の考えを発表すること」や「調べたことをもとに発表する」といった項目で「どちらかと言えば，いいえ」と「いいえ」にも一定数の児童がいることから，発言することに対して苦手意識を持っていることがわかる。

そこで本単元では，日常生活の中で関わるのが少ない「工場」を取り上げ，社会科見学という共通の体験をもとに学習していくことで，日常的な生活経験の個人差の影響を少なくし，学習を進めていけるのではないかと考える。また，社会科見学で「わからないこと」，「気になること」を質問し，学習課題を解決していくように仕組むことで，考えをもっている自信が持てず発言できない児童も安心して「わからない」と言える雰囲気作りを進め，体験をもとに発言できる場を設定していきたい。その中で一人一人が体験と学習内容をつなげて考え，発言する姿をめざしていく。さらに，思考ツールを活用させることで，視覚的に整理してグループでの話し合いが活発になるようにしていく。

5 指導にあたって

【研究とのかかわり】

**課題解決の過程において、つなげて考え、
根拠を明確にして表現する力の育成
～実生活と学びをつなぐ学習～**

以前児童との会話の中で「スーパーで働く人のことを学習しても意味がないよね。スーパーで働く人だけが学習すれば良い。」と話をされた。普段の授業と実生活の経験がつながっていない、もしくは実感できていないことによる発言だと感じた。このように語る児童がいることも踏まえ，今回のテーマに基づき授業を作る中で大切にしてきたことは「つなぐ」ということである。本単元ではテーマにもあるように「実生活と学びをつなぐ」だけでなく，「単元と単元をつなぐ」，「他教科と社会科の

学びをつなぐ、「児童と児童をつなぐ」など「つなぐ」ことを意識している。まず「実生活と学びをつなぐ」ということで、「工場ではたらく人」という単元のもと、生活の中で経験したことから学習課題を設定し、「企業」、「生産者」、「他の地域とのつながり」などの視点を明確にして整理していくことで実生活と学びをつなげていこうと考えた。次に「単元と単元をつなぐ」ということで、「はたらく人とわたしたちの暮らし」という大単元のもと、「店ではたらく人」の単元構成と同じように仕組むことで単元同士をつなぎ、「消費者のねがい」に応えるためにおこなっているお店の工夫や努力と、今回の「工場ではたらく人」で学習する、生産者の工夫や努力を比較しながら考えられるように仕組んでいる。スーパーにはセゾンファクトリーの商品も置かれているため、スーパーの学習から工場の学習へつなぐうえでも最適な地域の工場と言える。「他教科と社会科の学びをつなぐ」ということで、社会科見学で、国語科で学習したインタビューのしかたを生かせるように、本時では「なぞをとく質問づくり」という活動も取り入れ、他教科との学びのつながりも意識した。「児童と児童をつなぐ」ということで、付箋を用いたグループ活動も設定している。付箋に書く内容は、自分が体験して気付いたこと、その経験の中で疑問に感じたことになるので、根拠を明確にしながらか話すうえでもより具体的な話し合いができると考える。視点を立てさせる中で抽象化していくことは中学年段階で高度な部分もあるが、生活の中から根拠を探すことで焦点化を図りたい。

【研究の視点】

◎必要感のある課題の設定の工夫

- 町内の工場を取り上げることで、児童の生活と社会科の学習をつなぐ。また、「おいしさのなぞ」について、児童の「わからないこと」、「気になること」から学習課題を設定することで、見学時の視点や単元の学習の見通しを持たせる。設定した課題は模造紙にまとめ、解決した内容から模造紙内に書き込んでいくようにして、学習の足跡を可視化する。
- 「はたらく人とわたしたちの生活」という単元の中で、販売や生産の仕事に関わる人々の工夫や努力を「お仕事ブック」としてまとめるという見通しをもたせる

◎互いの考えや思いが高まり深まるための工夫

- 自分の考えを持ったうえでグループでの話し合いに参加できるように思考ツールを活用し、お互いの類似点や異なる点に注目し整理しながら考えを深められるようにする。
- 「企業」、「生産者」、「他地域とのつながり」などの視点を児童の言葉でまとめさせ、分類することで、焦点化しながら生産者が製品の製造を進める中で行っている工夫や努力について学習内容を深められるようにしていく。

◎学ぶことのよさを実感できるまとめと振り返り

- 「おいしさのなぞ」を予想させることで、見学や追究後の自己の考えの変容を実感できるようにする。
- グループでの活動を通して、自分の考えが変わったところ、友達の意見を聞いて新たに気づいたことについて考えさせる。
- 自分たちで考えた課題が授業の中で解決できたかどうかをふり返り、「お仕事ブック」を作るうえで、さらに調べる必要なことがあるかどうか考えさせる。

6 単元の指導と評価の計画（全13時間 本時 2/13）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】 評価規準（方法）
学習問題をつかむ	1	○町内の工場で作られているものを探し、気づいたことを話し合う。 ・工場が集中している場所 ・工場の概要について	・町内で生産され、多くの人に知られている製品に関心をもたせる。 ・見学する前に、事前に見学のしかたを指導し、見学する内容を確認する。	【関意態】町内の工場の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べようとしている。
	2 本時	○調べたいこと、疑問に思ったことをもとに質問づくりすることを通して、学習問題をつくる。	・調べたいことや疑問に思ったことをまとめ、観点を明らかにする。	【思判表】町内の工場の仕事の様子について気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題を見出すことができる。
	3	○子どもたちの疑問に対する答えを予想する。	・社会科見学後及び、この単元全体の学習後に学びの自己の変容をとらえやすくする	【思判表】視点ごとに設定した学習問題の答えを予想することができる。
調べる	4 ・ 5	○社会科見学に行き、実際の工場の様子を見てくる。	・自分たちの住む地域で作られているものがあることに気づかせる。	【思判表】実際に見聞きしたことをもとにして、予想をたて学習計画の見通しをもつことができる。
	6	○見学をもとに、これからの学習計画についての見通しをもつ。		
	7	○工場の概要についてインタビューしてきたことを踏まえながらまとめる。	・原料の仕入れなど地域の広がりや分かるものについて地図で確認する。	【知理】製造までに原料の仕入れがあり、他の地域ともかかわっていることについて理解している。
	8 9	○食料品工場を見学し、製品ができあがるまでの工程で疑問に思ったこと、気づいたことをまとめる。		【技能】観点にもとづいて見学したり、資料を活用したりして、工場の仕事の様子について必要な情報を読み取ることができる。 【知理】製品の完成までの工程を理解して

			いる。
10 11	○製造するにあたり、働いている人たちが大切にしていることや、工夫していることについて見学して見聞きしたことをもとにまとめる。		【知理】工場働く人の仕事について理解することができる。 【技能】調べてわかったことを、観点ごとに整理しながらノートにまとめることができる。
12	○製品の輸送や、働く人がどこから通勤しているのかなど、他の地域への広がりについて調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷先や通勤してくる人の出身について地図で確認する。 ・輸送や通勤手段に使われる交通機関も調べ、他地域とのつながりを確認する。 	【知理】工場仕事に見られる特色や他地域とのかかわりを理解している。
まとめる	13 ○学習問題についてまとめをしながら、これまでに調べたこと、気づいたことから生産者の工夫や努力について発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容を板書に整理して、ノートにまとめさせる。 ・学習問題のまとめとともに、自分の考えを書かせる。 	【思判表】工場働く人の仕事の工夫を自分たちの生活と関連づけて考え、適切に表現することができる。 【関意態】工場仕事の工夫を自分たちの生活と関連付けて考えようとしている。
いかす	14 ○今まで調べた働く人についてまとめ、わたしたちの生活とのつながりについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の内容や工夫、願いなど観点ごとに整理して記入させる。 	【関意態】働く人とわたしたちの生活とのつながりについて考えようとしている。

7 本時の指導

(1) 目標 地域の工場を見学するにあたり、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、工場が行っている工夫について、学習問題をとらえることができる。

(2) 【参観の視点（協議の視点）】

《視点1》 導入で実物や写真を提示したことは、児童が見学で質問したり見たりすることを考える際の手がかりとして有効であったか。

※全単元で取り上げたスーパーマーケットに比べて、児童にとって直接体験がほとんどない工場については、手がかりがないと疑問点が浮かびにくかったり、学ぶべきことにたどりつけなかったりすると思われる。そこで導入では、実物や写真を提示し、地元の工場の身近さや素晴らしさを感じさせ「実生活と学びをつなぐ」とともに、製品ができるまでの工程を概観することで見学する工場のイメージを持たせ、疑問点を考える上での根拠とする。同時に実物と写真の提示には、「原料」「生産の工程」「働く人の様子」「製品の出荷」という本単元で追究する視点を暗に示す意味もある。

《視点2》 疑問を仲間わけし、名前をつけたことは、「工場で働く人の工夫や努力」という単元で追究する課題を見通すことにつながっていたか。

※疑問を仲間わけし、名前を付けることは、この単元で追究する視点について、児童自身が自覚し可視化することである。教師が児童に視点を直接的に示すこともできるが、これを子供たちが行うことで、自らの疑問と学びをつないだり、児童間の考えをつないだりして、主体的・対話的な学びが生まれると考える。さらに、その視点に沿って次時以降追究し、見学で見聞きしたことや調べたことを根拠として表現する中で、子供たちは見学した工場のことだけでなく、他の工場でも行われているであろう「工場で働く人の工夫や努力」という汎用的な概念を獲得していく。名づけられた視点をその見通しとしたい。

(3) 指導過程 (2 / 14 時間)

時間	学習活動 (○発問・予想される反応)	指導上の留意点 (※) 評価 (★)
8	<p>1. クイズから子どもたちの意欲を引き出す。</p> <p>○この地図の点は何を表しているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本中に点がある。 ・お店の地図と書いてあるよ。 <p>○このお店で売っている製品と、先生の家で使っている製品はだいたいいくらだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このお店の商品が高そう。 <p>○この製品を作っている工場の写真ですがどこですか分かりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セゾンファクトリーです。 	<p>※<u>段階を踏みながら提示していく。</u></p> <p><u>(店舗マップ→製品→工場の写真)</u></p> <p>※全体交流の際に見学の視点として取り上げたい内容のヒントを示すことができるようにする。</p> <p>※普段の生活と比較することで、セゾンファクトリーで扱う製品との差異を捉えさせる。</p> <p>※<u>写真を示す際に、「原料」、「生産の工程」、「働く人の様子」に目を向けられるように、各視点に関する工場の写真を提示する。</u></p>
<p>【めあて】おいしいものを作り、とどけるなどをとくために聞くこと・見ることを考えよう。</p>		

6 1 2	<p>○セゾンファクトリーについてわからないことや気になること、質問したいことを付箋に書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ和田にあるのか ・働いている人の数 ・作るときの工夫 ・どこで売っているのか ・材料は何か <p>○グループになって、書いた付箋で似ているものをまとめましよう。まとめるときにはどんな約束がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな工場なのか ・いつからあるのか ・製品の作り方 ・一番人気は何か ・働いている人はどこから来ているのか <p>○グループになって、書いた付箋で似ているものをまとめましよう。まとめるときにはどんな約束がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じことについて書いてある付箋は重ねます。 ・似ている内容の付箋は仲間として一つにまとめます。 ・仲間の名前が決まったら色分けして見やすくします。 	<p>※付箋を利用し、短い文や単語で分からないこと、気になることを書かせる。</p> <p>※付箋をまとめる際の約束を確認する。</p> <p>※ある程度の付箋を貼り切ったところで仲間の名前を決めることを優先するように声をかける。</p>
1 2	<p>○どのように仲間分けしたのか、発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場について ・つくる中で工夫について ・運ぶことについて ・原料について ・働いている人について ・つくっている製品について ・地域とのつながりについて 	<p>※仲間分けした視点から発表してもらった後に、どのような学習課題が入るのか考える。ここでは付箋に書いてある質問として考えたことをキーワードで板書に残す。</p>
4 3	<p>○質問したいことを、考えてワークシートに書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場についてお聞きします。なぜセゾンファクトリーは和田地区にあるのですか。 ・働いている人についてお聞きします。どこから出勤してくる人が多いのですか。 <p>○学習問題をつくってみての感想やグループでまとめる中で気づいたことを振り返りとしてワークシートに書きましよう。</p>	<p>※画用紙や黒板の内容を参考にしながら、質問したいことをまとめさせる。</p> <p>※視点にも触れる質問の話型を提示し、見本を示す。</p> <p>★町内の工場の仕事の様子について気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題を見い出すことができる。</p> <p>【思判表／ワークシート】</p>

A：自分や友達の気づいたこと、疑問に思ったことから学習問題を見い出し、自分の言葉で視点に沿った質問を作ることができる。

B：自分や友達の気づいたこと、疑問に思ったことから学習問題を見い出し、話型にしたがって、視点に沿った質問を作ることができる。

8 成果と課題

《視点1》 導入で実物や写真を提示したことは、児童が見学で質問したり見たりすることを考える際の手がかりとして有効であったか。

地図、実物、写真など様々な資料は児童の興味を引くための手段として有効なものだった。準備された資料は地図、写真、実物など様々で、資料の活用のしかたや読み取り方、資料を用いる効果も実感できるものだった。しかし、様々な資料を提示したことで、それぞれの資料の中でどこに注目させたいのかが曖昧になってしまった。もっと「工夫や努力」というめあてに沿って深められていくような補助発問も必要だった。

《視点2》 疑問を仲間わけし、名前をつけたことは、「工場で働く人の工夫や努力」という単元で追究する課題を見通すことにつながっていたか。

今回、ふせんを使い仲間分けし、まとめることで、可視化され課題を見つける手立てになっていた。また、「グループ化」していくということは、社会科の学習において土台になる力であり、社会科で育てたい見方・考え方を身につけるための有効な手段となることがわかった。さらに全体交流の場でグループ化をしていくと、他の班と分け方が違うことに着目するような児童もおり、課題を捉えるための手段として有効だった。

しかし、分類した後に質問する内容を深め、学習課題としてさらにめあて（工夫や努力ということ）に近づくような全体交流があれば良かった。また、視点1とも重なる部分ではあるが、課題を見通すために準備した資料を一つ一つ丁寧に見て、見学の視点を明らかにしていく時間を大切に、資料に根拠を求めながらめあてに迫っていく展開も考えられた。

《授業後の児童の様子》

児童は今回の授業研究会を経て、単元が変わっても視点ごとに分けて課題を自ら考えられるようになってきた。「工場の仕事」では労働者、流通、原料、製造工程などの視点を立てて学習したが、「昔の道具」の学習でも、「道具の特徴」、「現在の道具と昔の道具の違うところ」、「使い手の感想」、「いつから使われているのか」など児童自身が疑問に感じたところから視点を立てて課題づくりをして学習している。調べ学習の際にも、どのような情報が必要なのか視点をもとに考えたり、視点ごとにまとめたりするなど、意識して学ぶ姿が見られるようになってきた。

また、児童は質問する内容も精練されてきたことを感じる。「工場の仕事」の単元初めに計画されていた社会科見学で、セゾンファクトリーを見学した際に質問してきた時よりも、数カ月後に設定されていた家具工場のオカムラで見学した際の方が働く人や流通、原料、製造工程に目を向けての質問をすることができた。児童自身の疑問から視点ごとに分類し、課題を作っていくという活動が社会的な見方で学習内容をとらえるきっかけになっていることを感じた。

第4学年社会科学習指導案

日 時 平成30年12月11日(火) 1校時

児 童 4年 男子3名 女子6名 計9名

場 所 4・5年教室

授業者 南陽市立梨郷小学校 中川 陽介

1 単元名 「山形県の観光大使になろう～バルバドス国の方々にむけて～」

2 単元目標

- (1) 県の地理的位置、地形や産業、県内の特色ある地域の様子、国内の他地域や外国との関わりなどに関心をもち、意欲的に調べ、自分たちの住んでいる県の特色やよさを考えようとしている。 (社会的事象への興味・関心・態度)
- (2) 他県との関わりや位置関係を考えたり、県内の地域の特色を相互に比較したりして、自分たちの住んでいる県の特色を考え適切に表現している。 (社会的な思考・判断・表現)
- (3) 地図や資料を活用したり、インターネットを活用したりして、県の様子について必要な情報を集め、読み取り、作品にまとめている。 (観察・資料活用 of 技能)
- (4) 自分たちの住んでいる県や市の地理的位置、47都道府県の名称と位置、県全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置、県内の特色ある地域の人々の生活の様子、県内の人々の生活や産業と国内の他地域や外国との関わりを理解している。 (社会的事象についての知識・理解)

3 教材について

山形県は、蔵王、鳥海、西吾妻や出羽三山などの名峰や、芭蕉の句で有名な山寺、母なる最上川など四季折々に表情を変える豊かな自然に恵まれている。すべての市町村に温泉が湧出しており、文翔館や霞城公園などの文化的遺産も数多く残っている。また、日本一の生産量を誇るさくらんぼ、つや姫や雪若丸などのブランド米をはじめ、そばや地酒など食にも恵まれている。昨今では、東北自動車道米沢～福島間が開通し、今年度には南陽・高畠～山形上山区間が開通を控えている。物流のネットワークが広がりつつあり、観光客が増えることが予想される。そんな魅力あふれる山形県を知るだけでなく、他地域に住む人々に山形県の情報を発信し、生まれ育った山形県の観光産業に貢献できる子供達を育てたいという思いから本単元を設定した。

4 児童について（男子3名，女子6名，計9名）

社会科の事前調査では，多くの児童が社会に対して肯定的な考えを持っていた。社会科見学では，訪問先の方の話を真剣に聞き，しおりのメモ欄を全て埋めたり，疑問があるとすぐに質問したり姿が見られた。また，授業で課題を出すと，お家の人への聞き取り調査やインターネット，新聞，本を使って意欲的に調べてくる児童が多い。そして，新聞を手に取り，日常的に読んでいる児童も数人おり，社会事象への関心も高い。

自分の考えを発表することや小グループで話し合いをすることに対して，好意的にとらえている児童が多いという結果となった。しかし，好きだと思っても自分の考えを言葉で伝えられず，言葉に詰まってしまう児童がいる。本単元では，そのような児童が学習に取り残されないようにするためにも，グループを活動単位として友達と対話しながら学習できる環境を整えた。

生活経験では，居住している南陽市を含めた置賜地域や商業施設が多い村山地域には足を運んでいる頻度が多いようである。庄内地域や最上地域は少数が訪れてはいるものの，ほぼ訪れたことがないと答えている。さらには，ただ行ったことがあるだけであり，その地域のよさまでに気付けていない児童が多い。だからこそ，山形県民として他地域の特色を知ってもらいたい。

5 指導にあたって

【学習指導要領とのかかわり】

第3学年及び第4学年 2内容

(6) 県（都，道，府）の様子について，次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ，県（都，道，府）の特色を考えるようにする。

ア 県（都，道，府）内における自分たちの市（区，町，村）及び我が国における自分たちの県（都，道，府）の地理的位置，47都道府県の名称と位置

イ 県（都，道，府）全体の地形や主な産業の概要，交通網の様子や主な都市の位置

ウ 県（都，道，府）内の特色ある地域の人々の生活

エ 人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわり

【研究とのかかわり】

課題解決の過程において，つなげて考え，根拠を明確にして表現する力の育成
～実生活と学びをつなぐ学習～

【研究の視点】

- (1) 子供の学習意欲を喚起し、単元全体の課題について見通しを持たせる導入
- ・事前に各地域及び各市町村の特色を知ることができるように、教室内に山形県の各市町村の観光ガイドブックコーナーを各地域に分けて設置する。
 - ・南陽市がバルバドス国とホストタウン合意書を締結し、2020年東京オリンピックに向けて交流するという身近な題材から学習問題を設定することで、山形県の良さをバルバドス国の方々に伝えたいという意欲を持たせる。
- (2) 調べたことをもとに、対話しながら考えを深めるための調べ学習
- ・山形県の地形や産業、交通の特色に迫れるようにするために、調べる際の視点として、「自然・食」、「交通」、「文化・観光名所」を示す。
 - ・ジグソー学習の形態を採用する。生活班を庄内地域、最上地域、村山地域、置賜地域の4地域に役割分担し、それぞれの地域を少人数が受け持ち調べ学習を行う。また、その調査内容を持ち寄って生活班に戻り、報告会を行う。
- (3) 学んだことを生かし、深めるためのまとめ活動
- ・本単元を、国語「わたしの研究レポート」(光村図書)と合科として取り扱い、時数を確保するとともに、調べたことを旅マップにまとめ、バルバドス国の方々に山形県の良さを発信できるようにする。

6 単元の指導と評価の計画 (全17時間 本時7/17時間)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】 評価規準(方法)
つかむ	1	<p>○南陽市がバルバドス国とホストタウン基本合意書を締結したことを知り、2020年東京オリンピックの交流にむけて、バルバドス国の人々に山形県のよさを伝えたいという意欲をもつ。</p> <p>○観光大使とは、どのような活動を行っているのかを知る。</p> <p>○学習問題をつくり、それに対する予想から学習計画を立てる。</p>	<p>・バルバドス国の人口や面積などの基本的な情報を知らせ、日本または山形県と比較させる。</p> <p>・VTRを視聴することを通して、観光大使の役割を知るとともに、他地域に自分の地域のどんなところをPRできるのか考えさせる。</p>	<p>【関】山形県のよさを他地域に意欲的に伝えようとしている。(発言・ノート)</p>
	<p>山形県にはどのようなよさがあるのだろう ～山形県の観光大使になり、山形のよさを発信しよう～</p>			

追究する	2 3	<p>○日本における山形県の位置や県内の地域区分，市町村名など，基本的な情報を調べる。</p> <p>○生活班で調べる地域を役割分担し，同じ地域を調べる人同士で調査班を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地図帳」や「わたしたちの山形県」を活用し，山形県の白地図に基本的な情報を記入させる。 ・調べる地域を選択する際は，生活班（4人もしくは5人（以下 A グループとする））が，必ず庄内，最上，村山，置賜の4地域に分かれるように促す。 	<p>【技】 山形県の基本的な情報を白地図にまとめている。（白地図）</p>
	4	<p>○南陽市が誇る観光の魅力を話し合い，南陽市の白地図にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>これまでの生活経験を</u>もとに，<u>南陽市のよさを「自然や食」，「交通」，「文化・観光名所」の視点に分類しながら話し合わせる。</u> ・<u>3年生の時の学習内容や社会科見学を想起させ，南陽市の魅力を考えさせる。</u> 	<p>【思】 生活経験をもとに，南陽市の魅力を考えている。（発言・白地図）</p>
	5 6	<p>○選択した地域の「自然や食」について調べ，白地図にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査班ごとに分かれ，調べ学習を進める。 ・本やインターネット，観光ガイドブックなど様々な手段を活用して調べさせる。 ・各地域の白地図を準備し，各市町村の自然や食の特色を記入できるようにする。 	<p>【技】 地図やその他の資料を活用し，選択した地域の「自然や食」についてまとめている。（白地図）</p>
		<p>○報告会を行い，山形県全体の「自然や食」の特色をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活班で報告会を行</u>わせ，<u>調べた地域だ</u> 	<p>【思】 各地域の調査結果をも</p>

7 本時		<p>けではなく、他地域の「自然や食」の特色と比較させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域で比較した結果をもとに、全体で山形県の「自然や食」の特色を考えさせる。 	<p>とに、山形県の「自然や食」の特色を考えている。(発言・ノート)</p>
8 9	<p>○選択した地域の「交通」について調べ、白地図にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調査班ごとに分かれ、調べ学習を進める。 ・本やインターネット、観光ガイドブックなど様々な手段を活用して調べさせる。 ・各地域の白地図を準備し、各市町村の自然や食の特色を記入できるようにする。 	<p>【技】 地図やその他の資料を活用し、選択した地域の「交通」についてまとめている。(白地図)</p>
10	<p>○報告会を行い、山形県全体の「交通」の特色をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活班で報告会を行わせ、調べた地域だけではなく、他地域の「交通」の特色と比較させる。 ・各地域で比較した結果をもとに、全体で山形県の「交通」の特色を考えさせる。 	<p>【思】 各地域の調査結果をもとに、山形県の「交通」の特色を考えている。(発言・ノート)</p>

まとめる【合科 国語「私の研究レポート」】	1 1 1 2	○選択した地域の「文化・観光名所」について調べ、白地図にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・調査班ごとに分かれ、調べ学習を進める。 ・本やインターネット、観光ガイドブックなど様々な手段を活用して調べさせる。 ・各地域の白地図を準備し、各市町村の自然や食の特色を記入できるようにする。 	【技】地図やその他の資料を活用し、選択した地域の「文化・観光名所」についてまとめている。(白地図)
	1 3	○報告会を行い、山形県全体の「文化・観光名所」の特色をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活班で報告会を行わせ、調べた地域だけではなく、他地域の「文化・観光名所」の特色と比較させる。 ・各地域で比較した結果をもとに、全体で山形県の「文化・観光名所」の特色を考えさせる。 	【思】各地域の調査結果をもとに、山形県の「文化・観光名所」の特色を考えている。(発言・ノート)
	1 4 1 5 1 6	○バルバドス国の方々に山形県の良さを伝えるための旅マップを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・旅マップは個人で作成させる。 ・山形県の多くの魅力の中から最も伝えたいものを取捨選択させる。 	【思】山形県の魅力を考えながら、旅マップにまとめている。(旅マップ)
1 7	○旅マップをグループで最終報告する。	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラで各自の作品を撮影し、大型テレビに映し出し、それをもとに報告させる。 	【思】旅マップをもとに、山形県の魅力を伝えている。(報告)	

7 本時の指導

(1) 目標

山形県の「自然や食」に関する各地域の報告を聞き、山形県全域に共通することを話し合う活動を通して、山形県の「自然や食」の魅力を標語にまとめることができる。

(社会的な思考・判断・表現)

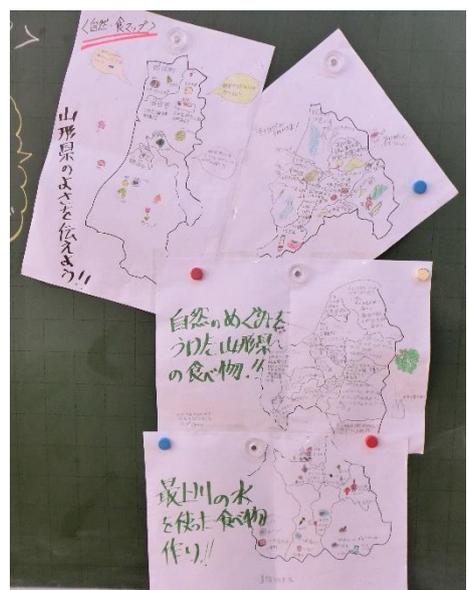
(2) 指導過程

時	学習活動 (○発問・予想される児童の反応)	指導上の留意点(※)評価(★)
導入 15分	<p>1 山形県の各地域の「自然や食」について、調べたことを報告する。</p> <p>○ 地域ごとに調べたことを報告しましょう。各地域の報告を聞いている中で、「自然や食」に関わって山形県全域に共通することはどんなことがあるのかを考えながら聞きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内地域を調べたグループです。庄内地域は、出羽三山などの山に囲まれていて、緑がいっぱいです。庄内平野が広がっており、庄内米がたくさん作られています。また、海に面していてサクラマスや寒ダラなど魚介類もたくさん捕れます。海水浴場もたくさんあり、夏はにぎわっています。さらに、だだちゃ豆などの庄内野菜や砂丘メロンなどの果物が有名です。 	<p>※報告は調査班ではなく、生活班ごとに行わせる。</p> <p>※調べる中でまとめた1枚の4つ切りサイズの画用紙や各市町村の観光パンフレットを活用して報告させる。</p> <p>※報告の中で、追加したほうが良い情報があれば、教師が適宜補いながら進める。特に、「自然と食」の両方に触れているかどうか確かめる。</p> <p>※各地域の報告が終わるたびに、質問する時間を設けさせる。</p>
展開 20分	<p>2 各地域の報告を聞いて、山形県全域に共通する「自然や食」の特色をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>山形県全域に共通する「自然や食」の特色を見つけ出そう</p> </div> <p>◎ あわせてできた地図を見てください。「自然や食」に関わって、山形県全域に見られる共通点はどんなことがあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県のどの地域も山に囲まれています。出羽三山や吾妻山などは登山客に人気があり、観光地となっています ・最上川がどの地域にも流れています。置賜地域から流れ始め、庄内地域までずっと続いています。 ・山形県のどの地域でも田んぼが広がっており、 	<p>※<u>各地域の画用紙をあわせる</u>と<u>山形県全域の地図となり、それを俯瞰して見る</u>ことによって、「自然や食」に関わる<u>山形県全域に共通することを捉えさせる</u>。</p> <p>※山形県の共通する特色が見つけれない場合、東京都など比較しやすい都道府県を例に挙げ考えさせる。</p>

	<p>お米が盛んに作られています。つや姫や雪若丸など種類がたくさんありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県のどの地域でも果物が栽培されています。でも、地域ごとに育てられている果物の種類は違うようです。 ○ 逆に、その地域にしか見られない特色はありますか。 ・他の地域に比べて、村山地域は建物が多く、最上地域は森林が多いです。 ・果物栽培では、庄内地域では主に砂丘を利用したメロンが、最上地域では温度格差を利用したすいかが、置賜地域では山の斜面を利用したぶどうが作られています。 	
<p>まとめ 1 0 分</p>	<p>3 今日学んだ「自然や食」に関わる山形の魅力を標語にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ バルバドスの人々に会って、今日学んだ山形の魅力を標語にして伝えるとします。どんなことを伝えますか。 ・ 最上川に 出羽三山 自然あふれる山形県 ・ 自然の恵み受け 食料作り出す 山形県 ・ 山形のいたる所で さくらんぼ 召し上がれ 	<p>※ 標語は個人ごと短冊にまとめさせる。書き上げた短冊は黒板に貼り出し、終わった児童から2枚目を書くように促す。</p> <p>★山形県の「自然や食」のよさを標語にまとめている(標語)</p>

8 成果と課題

- 教科書や副読本、インターネットだけではなく、各市町村の観光ガイドブックを活用して調べ学習を行った。観光用に作られているため、児童の様子を見ると興味をもって休み時間に読んでおり、情報収集には有効な手立てであった。
- 各地域の「自然・食」、「交通」、「文化・観光名所」を調べ報告した後に、それぞれの視点で山形県全域の共通性を見出す授業の流れは、山形県全域の地形や産業の概要や交通網の把握につながった。
- 各地域をつなげて、山形県全域の共通性を見出す活動だけでなく、その地域にしか見られない特色を考える時間も授業中に確保したい。
- 時数に限りがあり難しいが、山形県の特性を考える上で、他県との比較も取り入れたい。



第5学年2組 社会科学習指導案

平成31年1月11日(金)

南陽市立赤湯小学校

指導者 佐藤祐貴

1 単元名 情報化した社会とわたしたちの生活

2 単元の目標

- ・放送、新聞などの情報産業と国民生活とのかかわりに関心をもって意欲的に調べ、情報を有効に活用することができる。(関心・意欲・態度)
- ・放送や新聞などの情報産業と国民生活とを関連づけて思考・判断したことを適切に表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- ・我が国の情報産業の様子から学習課題を見だし、資料や新聞記事、インターネットを活用するなどして必要な情報を集め、読み取ったことをまとめることができる。(観察・資料活用の技能)
- ・情報産業が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報産業を通じた情報の有効な活用が大切であることを理解することができる(社会的事象についての知識・理解)

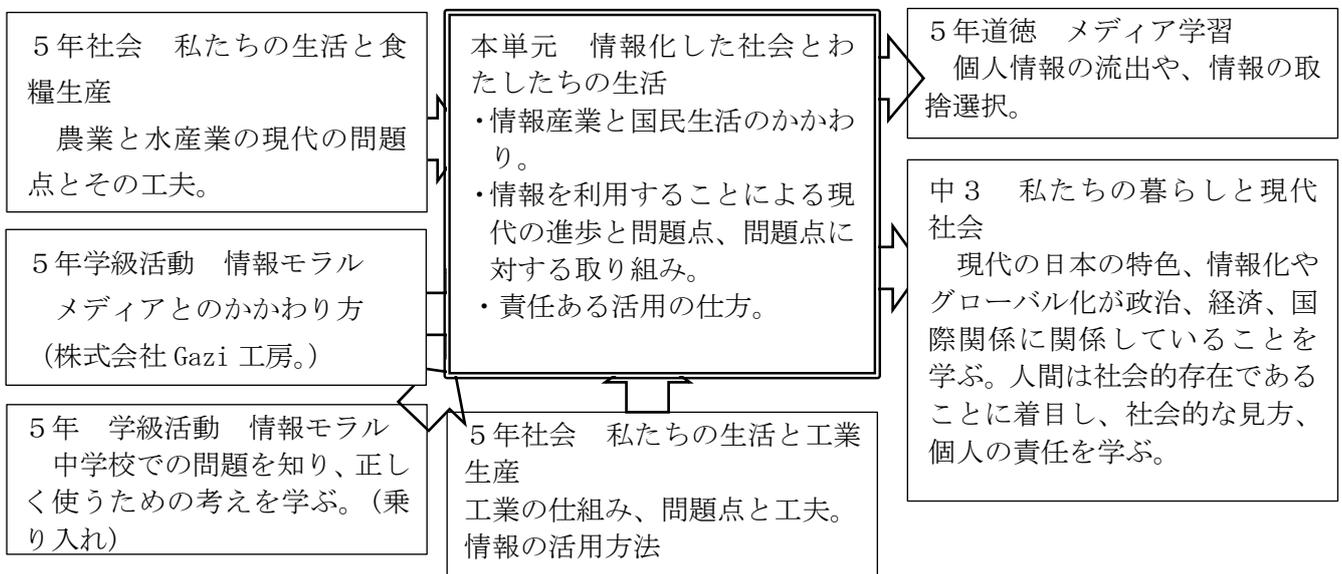
3 教材について

(1) 単元について

本単元は、社会の情報化の進展に関する学習である。近年の情報化社会の進歩は目覚ましく、電子カルテや検査結果を、瞬時に取り出して遠隔診療に役立てたり、世界中の出来事はインターネットを通して誰でも簡単に送受信したりすることができるようになった。一方で、インターネットの匿名性から他人への誹謗中傷や個人情報の流出、デマや誤った情報の拡散等が問題となっている。

そこで、本単元では、「放送、新聞などの産業と国民生活のかかわり」「情報化した社会のようすと国民生活のかかわり」といった我が国の情報産業や情報社会の様子について、調査したり資料を活用して調べたりすることで、より早く正確に情報を伝えようとしている人々の工夫や努力を理解させていきたい。また、単元を通して情報化した社会で有効な情報を活用する大切さについても考えさせていきたい。

(2) 学習指導の連続性・関連性



4 児童について（男子13人、女子14人、計27人）

男子13名、女子14名の進んで自分の意見を発言できる子どもが多い学級ある。これまで、社会科学の学習では、農業や水産業の学習を行い、自分たちで調べたいことを決めてグループを作り、調べたことを発表し合う活動を通して資料から適切な情報を探すことや、必要な情報を選んで伝えることを学習してきた。しかし、図書のみ、インターネットのみと、1つの記事だけで調べており、情報が偏っていたり、深く語彙の意味が理解できていなかったりしている様子も見られている。

本単元では、適切な情報を探すにあたって、メディアによって情報伝達の手段が違うことや伝えたい内容が違っていることから、複数の情報から取捨選択していく必要があること、情報の多様な使われ方による利点と問題点を、情報を公開する側の苦労や工夫と合わせて考えさせていきたい。

5 指導にあたって

(1) 学習指導要領と関わって

我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

ア 放送、新聞などの産業と国民生活とのかかわり

イ 情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり

中略

「情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする」とは、情報化した社会において人々が主体的に生きていくためには情報を有効に活用することが大切であることについて考えるとともに、様々な情報に対して適切に判断し、望ましい行動をしようとする能力や態度を身に付けることである。 第5学年の内容（4）

情報化した社会は変化し続けており、放送や新聞などのマスメディア、インターネットなどの情報ネットワークで情報を伝える産業とどのように生活に関わっているか、またどのような場面で情報は活用されているのかを調査したり、調べたりすることで理解し、自分がどのように行動したらよいか考えさせていきたい。

(2) 全体テーマと関わって

考える力を育む授業づくり研究会全体テーマ

課題解決の過程において、つなげて考え、根拠を明確にして表現する力の育成
社会科テーマ～実生活と学びをつなぐ学習～

上記テーマに基づき、以下の2点を研究の視点に設定した。

①実生活と学びとの関連性

- ・本単元では、普段見聞きするメディアと自分たちの生活のつながりを考えさせることで、情報の送り手の工夫や、受け手が考えること両方のかかわりを考えさせていく。また、単元の最後に、自分たちがどのように情報をやり取りするか情報活用宣言書をつくり、実生活で活用させる。

②主体的に調べ、関連付けながら話し合う活動

- ・ジグソー法を活用し、互いに調べたことを持ち寄って伝え合う活動を取り入れ、意欲を高める。
- ・互いに調べたことを伝え合う活動では、それぞれの調べたことを関連付けたり比較したりすることで、課題に対してより深く理解をさせていきたい。

6単元の指導と評価の計画

1 4時間扱い（本時 13/14 時間）

次	時	主な活動	指導上の留意点(・)評価の観点(☆)
1	1	○放送局では、大震災の時に情報をどのようにして伝えたのか考える。 ○情報を伝える人の工夫や願い、もっと調べてみたいことなどを考え、学習問題をつくる。	・写真や当時の映像、道徳で学習した新聞社の学習から、正確な情報を伝えようとした思いを理解させる。 ・伝える側と受け取る側の立場から学習問題を考えさせる。 ☆放送などのマスメディアを通して情報を提供している産業と国民生活のかかわりについて学習問題を考え、表現している。(思考・判断・表現)
	2 3 4	○放送局では、どんな工夫をして放送しているかを調べる。	・報道番組の作られ方や心掛けていること、番組編成、利用者の利用の仕方について分けて調べさせる。 ・ジグソー法を活用し、3人グループで3つの課題に分かれて調べ、調べたことをグループで報告する。 ☆教科書や資料集、新聞などを活用し、日本の情報産業について必要な情報を読み取っている。(技能) ☆番組編成の工夫などから放送などの産業と国民生活のかかわりを理解している。(知識理解)
	5	○テレビの情報を上手に生かすためにはどうしたらよいか考える。	・プラス面、マイナス面の両面をとらえさせていく。 ・送る側と受け取る側の両面から考えさせる。 ☆情報の有効な活用が大切であることに関心を持ち、意欲的に考えている。(関心・意欲・態度)
2	6	○身の回りでどんなネットワークを通じて情報を手に入れた経験について発表しあう。 ○病院の中の情報ネットワークについて調べる計画を立てる。	・実生活で使われているネットワークを挙げ、身近なところで活用されていることを実感させる。 ・院内での利用等、子どもや家族の経験から課題を考えることで「情報ネットワーク」という言葉を理解させるとともに関心を持たせる。 ☆身近に使われている情報ネットワークに興味を持ち、意欲的に学習課題を立てている。(関心・意欲・態度)
	7 8	○病院の中のネットワークの使い方についてチームに分かれて調べる。	・前時の子どもたちから出された意見をもとに、病院内での活用、病院と地域とのつながり、遠隔医療についての3つにグループを分け、教科書や図書、インターネットを用いて調べさせる。 ジグソー法を活用し、3人グループから1つずつテーマを分担して調べる。 ☆資料やインターネットを活用して、情報ネットワ

			ークの活用について必要な情報を集め、読み取っている。(技能)
	9	○病院の中でのネットワークの使われ方について発表しあう。 ○ネットワークが私たちの生活に与えている影響について、利点と問題点を考える。	・それぞれの調べたことを発表しあい、情報ネットワークの発達によって生活が便利になったり安心したりすることができるようになったことに気づかせる。 ☆情報ネットワークが有効に活用され、私たちの生活を守ったり便利にしたりしていることを理解している(知識・理解)
3	10	○情報ネットワークによって便利になった世の中について発表し合い、情報化の進展による問題点から学習課題をつくる。	・病院におけるネットワークの利用以外にも、図書館や防災、商売などの様々な面でネットワークが使われていることに気づかせる。 ☆情報に囲まれた生活の利点と問題点、有効な活用方法を意欲的に調べようとしている。(関心・意欲・態度)
	11	○調べ学習でインターネットを活用するときの正しい使い方を考える。 ○メディアリテラシーとして身に付ける必要があることをノートにまとめる。	・メディアリテラシーの意味について話し合わせる。 ・教科書の記述や話し合った内容から各自でノートに整理させる。 ☆資料を活用し、正しいインターネットの使い方について読み取ったことをノートに整理している。(技能)
	12	○情報活用の問題点を調べて、問題の原因を話し合う。 ○インターネットのやりとりで気をつけることを話し合い、自分の情報モラルについて振り返る。	・情報モラルという言葉について全員に理解させる。 ☆情報の有効な活用には情報モラルが大切であることを理解している。(知識・理解)
	13	○情報の活用について大切なことをまとめ、情報活用宣言をつくり、ブログで発信する。	・学校のホームページのブログで発信し、自分たちの行動指針とするとともに、保護者にも知ってもらえるようにする。 ☆情報を有効に活用するため、責任ある活用をするために、情報活用宣言に適切に表現している。(思考・判断・表現)
	14	○単元のまとめ	☆情報産業や情報化された社会と国民生活とのかかわりについて理解している。(知識・理解)

7 本時の指導

(1) 目標

これまでの学習をもとに情報を有効に活用するため、責任ある活用をするために情報活用宣言に表現することができる。(思考・判断・表現)

(2) 学習指導の過程

時間	学習活動(番号) 主な発問(○) 期待する反応(・)	評価・方法(☆) 指導上の留意点(・)
導入 7分	<p>1 これまでの学習の振り返り ○情報とどのようにかかわっていけばよいか振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて取捨選択する。 ・個人情報の流出に気をつける。 ・リテラシーを身に付ける。 ・他の人を傷つけることを載せない。 <p>2 本時のめあての確認 ○今日は、みんなが学んだ情報とのかかわり方から、自分たちが使うときのルールを自分たちで作っていきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報産業が大切にしていること、情報ネットワークの近代化によって生まれている問題点から、どんなかかわり方をするとよいか思い出させる。 ・これまで学習した内容から、具体的に自分たちが生活で実践できる宣言書をつくることを確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて 情報活用宣言をつくり、学校のホームページに載せよう。</div>	
展開① 15分	<p>3 情報活用宣言に必要な約束を考える。 △グループで、宣言にいたい言葉、約束事を考えて短冊に書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に写真をアップロードしない。 ・友達の悪口を書かない。 ・調べるときは2つ以上調べて、本当に正しいか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短冊を用意し、グループで話し合いながらこれまでの学習から守りたいことを短冊にまとめさせる。 ・実践できる内容かを考えさせながら話し合うようにさせる。 <p>☆短冊に自分たちで守る情報活用宣言を表すことができる。(話し合いの様子・短冊)</p>
展開② 15分	<p>4 学級全体で宣言を作る △短冊をまとめて、必要なものをみんなで選び、ガイドラインを完成させよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報は、本当に載せてよいか考えて、親に相談してから書くようにする。 ・テレビや動画を見るときは、本当に正しい情報なのかよく考えて見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで書いた短冊を黒板に貼り、子どもたちに分類させる。 ・分類したものから、自分たちで実践できそうなものを選ぶ。
まとめ 8分	<p>5 まとめと振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%; margin: 0 auto;">リテラシーや情報モラルをこれからも身につけ、責任をもって使っていく。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りでは、どのように実践していくか、特に守りたいものはどれかを考えさせる。

8 成果と課題（成果○ 課題●）

本時で作成した学級の情報活用宣言書は以下のとおりです。

- ・地域や社会のための便利な情報を上手に活用します。
- ・名前や住所、パスワード等の**個人情報**は**広めない**ようにします。
- ・複数の情報から正しい情報を選んだり、情報発信の方法を身につけたりして、**メディアリテラシーの力を高めます**。
- ・他人の悪口を書いたり、知らない人と会ったりしないよう、**情報モラルを身につけます**。
- ・**ネットからの被害から身を守る**ため、すぐにダウンロードしたり、すぐに情報を信用したりしません。
- ・**時間を決めて使用**し、手紙、電話、会話等、交流を大切にします。
- ・**お家の人と普段から正しい使い方を話し合い、正しい使い方を身に付けます**。

○本単元以前、農業、水産業、工業の学習では、子どもたちが主体的に考える力を育むため、ジグソー法での学習を行った。調べたいテーマに分かれて調べてまとめ、発表資料を作って発表し合う活動を取り入れることで、必要な情報を選択したり、複数の資料から正しい情報を選択しようとしたり、深く調べて友達から質問されたときに答えられるようにしたりすることができた。質問に対して追調査を行ったり、他の班の発表で必要なことを自分でまとめたりすることで、理解を深めることができた。

○テレビ、インターネット、新聞、さまざまな媒体を比較することで、それぞれの良さや特徴をつかみ取り、子どもたちの生活と関連付けることができた。

○本時では、前時までのつながりや、実生活とのつながりを意識して学習を行った。子どもたちからは様々な活用宣言の案が出されたが、その中に「子どもだけでインターネットを使わない」という文言があった。情報を活用する際、知識がなく心配だという子どもたちの思いから出てきた文言だったため、自分たちが実際に宣言を守るとき、守れるのか想起させ、普段から相談できる関係づくりを大切にすることにした。

- 「情報」という特性上、めまぐるしく変化していて、教科書の内容より技術はさらに進歩している。どの程度指導するかという点で、教材研究が難しかった。
- 本単元では単元をつらぬいた課題設定をさらに工夫する必要性があった。

今後、学年全体で本時が終了したとき、5年生での情報活用宣言を作り、学校ホームページでの発信や保護者との懇談会での資料として活用していく予定です。